

辺野古通信

第59号 2017年6月9日

キャンプシュワブを背にカヌー隊勢ぞろい(5/14)



発行: 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)

沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

国際社会にも背を向ける安倍政権。違法工事をなせ!

■辺野古埋立ての護岸工事が始まって一ヶ月以上経過した。キャンプ・シュワブの工所用ゲートから入る車両が一日100台を超える日もあり、座込みを排除する機動隊の暴力、弾圧も激しさを増している。5月以降の約1ヶ月で4人が公務執行妨害、道交法違反で不当逮捕されているが、全員翌日に解放されている。明らかな見せしめ逮捕だ。マイクで「座込みを指示した」とゲート前集会の担当者が拘束される事態も起きている。6/2には機動隊に排除された60代の女性が後頭部をコンクリートに打ちつけて出血し病院に運ばれた。官邸からの指揮の下、防衛局も警察も歯止めなく暴走している。■民主主義、法治主義の建前もかなぐり捨てた国家は、国際社会でも発言力を失っていく。5/30に国連高等弁務官事務所が公開した言論と表現の自由に関する特別報告者・デービッド・ケイ氏による対日調査報告書は、辺野古・高江における日本政府の「過度な権力行使」に懸念を表明した。山城博治さんの5ヶ月に及ぶ長期勾留に対しても「不適切」と批判している。その山城さんは6/15の国連人権理事会で沖縄の基地問題と人権状況を国際社会にアピールすることが決まった。保釈条件で海外渡航を制限していた裁判所も、弁護

団の申請を認めざるを得なかった。日本政府は共謀罪法案への懸念も特別報告者から示されており、人権理事国としての立場は揺らがざるを得ない。■沖縄が「復帰」45年目を迎えた5/15、私たちは辺野古にいた(2頁)。沖縄タイムスの5/14記事によると、人口当たりの米軍負担率(米兵数を人口で割った数字)を見ると沖縄が本土の約209倍となり、また「復帰」直後から進駐した自衛隊の施設面積が45年間で4倍に広がっている。米軍被害が続き、新たな基地建設が強行されている。記事の見出しは「命と尊厳奪われ」「基地なき島遠く」。■結ぶ会主催の5/23講演集会は大盛況。金平茂紀さんの「仲間内だけの議論になっていないか」「多数派に働きかけているか」という指摘に刺激を受けた(3頁)。■6/7 翁長知事は違法工事を続ける防衛局に対し差止め訴訟と工事中止の仮処分を7月中に那覇地裁に提起することを表明した。辺野古ゲート前では連日座込み行動が続いている。神奈川で首都圏で世論を喚起すること。現地座込みに参加し工事を遅らせ埋立てを止めること。できることから始めよう!

■辺野古・高江カンパは2,222,055円(6/8現在の累計)。引き続きカンパを! 郵振 00210-0-2021 沖縄連続講座

辺野古埋立て用のケーソンを作るな! 新基地建設反対! JFE 本社行動

6月28日(水)15時半 JR 鶴見線弁天橋駅集合

横浜市鶴見区に本社のあるJFEエンジニアリング(株)が、辺野古の埋立てのためのケーソン(土砂を入れる巨大なコンクリートの箱)の製造を請け負っています。沖縄の民意を無視した米軍基地建設への加担をさせないために、JFE 横浜本社への抗議申し入れ行動を展開します。多くのみなさんの結集を訴えます。(ケーソンは三重県のJFE津工場で作られ辺野古に運ばれます)

■主催: 6.28 行動実行委員会(呼びかけ: 神奈川アクション、神奈川平和運動センター、基地撤去をめざす県央共闘会議、島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会)

■連絡: 090-8818-1431 高梨晃嘉(神奈川アクション・島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会代表世話人)

5/23 の夕刻に横浜市内・開港記念会館にて開かれた「辺野古への埋立てを許すな！5.23 横浜集会」は、講師が TBS 報道特集でお馴染みのニュースキャスター・金平茂紀（かねひらしげのり）さんということもあり、狭い会場（110 席）から人が溢れるほどの大盛況だった。沖縄講座も参加する「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」が主催した。

この日は共謀罪法案が衆議院本会議で採決されるというので、金平さんも取材で慌しく駆け回っていたようだ。朝 9 時過ぎに電話が入り、国会の状況によっては横浜の会場に間に合わなくなる可能性があるかと告げられた。万一の場合も覚悟して、代わりに沖縄に関わる最新映像 DVD を用意して、夕方に臨んだ。16 時過ぎに共謀罪法案は衆議院本会議を通過し、金平さんは夕刻の集会開始時間 30 分前に会場に姿を見せた。ここでトラブル発生！金平さん持参の PowerPoint・データが USB の中に見当たらない。もう一つ金平さんが持参された映像データは映し出せたが、結局、PowerPoint・データなしで 60 分お話いただくことになった。「すべてアドリブです」と、ユーモアたっぷりの自然体の語り口が、結果的には大好評だった。

防衛省や官邸の役人のような『上から目線』—劣化する本土メディアと政治、そして私たちは？

金平さんは、「官邸はあらゆる手段を講じて翁長県政を一期で終わらせようとしている」と指摘し、翁長県政が直面している厳しい現実を「八方塞がり」「絶望的」と表現した。金平さんが沖縄取材に入り込むきっかけとなったのは 1995 年の少女暴行事件の衝撃だ。「本土と沖縄の間にある根源的な溝を取材したいと思った」と振り返る。「本土メディアの立ち位置は、まるで防衛省や官邸の役人のような『上から目線』で沖縄を見下げる」と、政治だけでなくメディアも劣化している本土の現状を手厳しく批判した上で、「視聴者自身、私たち自身も劣化しているのではないか。仲間内だけの議論になっていないか。少数派の閉じられた空間ではなく、堂々と多数派に向かって語りかけているか」と繰り返し問いかけた。沖縄の現状について、あまりに悲観的に語りすぎているのではと感じる場面もあったが、絶望的な状況



にあることを見据えて闘わないと沖縄は大変なことになるのではないかと、という警告は、沖縄の現場に通いつめ、変わらない本土による沖縄差別と安倍政権を支える全国世論の現実を見続けてきたジャーナリストとしての危機意識の発露と受け止めた。「絶望するところからしか希望は生まれない」「御用記者・御用メディア・御用文化人・御用学者をどうやって痛い目に合わせるかをこれから考えたい」「傍観者が、本土の無関心が、沖縄のイジメの構造を支えている」これらのメッセージも強く印象に残った。ジャーナリスト・金平茂紀さんの報道現場での今後の活躍に大いに期待したい。参加者のアンケートにも、そんな感想が多く寄せられた。

講演の後、「辺野古高江派遣基金・神奈川」の会計報告とカンパの呼びかけがされた。昨年 9 月末の派遣基金創設以降からだけでも、延べ 30 人が辺野古・高江の座込みに参加してきた。

座込み参加報告「多数派に働きかけ諦めない闘いを」

続いて、5/9-12 まで辺野古座込みに 11 人で参加した Y さんから報告。Y さんは「シュワブのゲート前に座り込み、あきらめない沖縄の人々の闘いを目の当たりにした。資材を搬入する車の前に立ち塞がって運転手に切々と語りかける姿が目には焼き付いた。沖縄各地からの参加者によるゲート前集会での発言から、オール沖縄の力を感じた。海勢頭豊さんの即興のコンサートがあり、体操があり、工事の問題点



が具体的に語られるなど、まさに『辺野古大学』がそこにあった」と報告。機動隊による牛蒡抜きも体験。「全島、全国からの人々で座り込みが支えられている。わずか数日の座り込みだったが、たくさんのごとを得た。数は力になることを実感した。想像を超える強硬策が、異常なことが起きている」「これは沖縄だけでなく私たち自身の闘いでもある」と強調。「金平さんが沖縄の厳しい状況を指摘した。少数派でも、魅力たっぷりに多数派に働きかけ、諦めない闘いを続けたい」と結んだ。

集会の最後に、司会の高梨晃嘉・結ぶ会代表世話人から派遣基金カンパが 63,756 円集まったことが報告され「座込みの数が少ないと簡単に排除され、



工事が進んでしまう。一人でも多くの方の現地座り込みへの参加を呼びかけたい。現地に一緒に行きましょう！」との訴えで閉会した。

移転で基地負担軽減？実は機能強化

1996年12月の「SACO合意」は、1995年9月の米兵による少女強姦事件に対する沖縄の怒りを鎮めるための「基地負担軽減策」として日米両政府が合意した、ハズだった。しかし、実は「負担軽減」どころか「基地機能強化」でしかない実態が、次々と暴露されている。その最たるものが普天間基地の「辺野古移設」。そして最近になって二つの「SACO合意＝負担軽減」のまやかしが明らかになり、抗議の声が高まっている。

住宅密集地で繰り返されるパラシュート訓練

一つは米軍によるパラシュート降下訓練。「SACO合意」で、降下訓練は伊江島補助飛行場で実施する（例外的に嘉手納基地で実施）とされたが、訓練移転以降も、伊江島以外での訓練が常態化している。嘉手納基地で4/24に6年ぶりに実施され、県や周辺自治体の抗議を無視するかたちで5/10に今度は「復帰」後初めてと言われる夜間降下訓練が自治体への事前連絡もなく強行された。住宅密集地での危険な夜間降下訓練に抗議の声が相次いだ。しかも米軍のHPで「嘉手納基地は降下訓練に適している」と記されていた！事前に知らされなかった防衛省も怒ってみせたが、米軍に謝罪を求めるでもなく「遺憾」の表明にとどまっている。要するに、伊江島も使うが、米軍の都合次第で嘉手納も使わせてもらうということ。「訓練移転」が、実は「訓練拡充」でしかない例は降下訓練に限らない。

騒音軽減のための駐機場移転のはずが・・・

二つ目は嘉手納基地の旧海軍駐機場継続使用問題。「SACO合意」の「騒音軽減イニシアティ



ブ」に基づき、住宅地に近い旧海軍駐機場から基地中央部に移転し新たに駐機場が整備された（本年1月完了）。日本政府はこの新駐機場整備に約157億円の予算を投じた。ところが移転完了後の一ヶ月後には旧駐機場の使用が再開され、KC135空中給油機やC146A特殊任務機、5月には韓国烏山基地のU2偵察機など外来機が使い続けている。沖縄県も地元も旧駐機場は新駐機場完成後には使用しないものと考えていた。ところが日本政府は「騒音さえ出さなければ旧駐機場使用も認める」という認識だ。米軍は「2009年の日米合同委員会で旧駐機場使用を合意した」として継続使用の意思を鮮明にした。政府はこの「合意」自体は否定しているが、旧駐機場使用をやめさせる気はない。日米合同委員会自体が非公開のため真偽を確かめようもない。ここでも米軍の「運用」が最優先されている。一体どこの国の「防衛省」なのか。

6/7 嘉手納町議会は旧駐機場の使用禁止、SACO合意順守を求める抗議決議を採択した。

目に余る県警の暴力一座込み市民排除にハサミ!?

5月14日から16日まで沖縄講座3名で辺野古に行ってきました。三日間の座込みレポート。

5月14日(日)

前日から沖縄は梅雨入り。何とか午前中は雨もなく、大浦湾の北側、瀬嵩の浜で10時から県民大会。参加者2200人、浜が人で埋め尽くされた(下の写真)。抗議船とカヌー隊も海上から参加。日曜日で防衛局の作業はないが、海保の船がフロートの中から警戒。シュワブの海岸に工事が着手された護岸が見える。山城博治さんも元気な姿を見せた。県民大会終了後に高江を訪問。野鳥が囀り静かな山原(やんばる)の森、しかしN4,N1ゲート前にはALSOKの警備員が手持ちぶさに並んでいて、そこだけ異様な雰囲気。高江から北上した安田で絶滅危惧種のヤンバル・クイナを発見!やはり、やんばるの森に軍事基地は似合わない。

5月15日(月)

平和行進の参加者が合流して朝から100人以上の座り込み。安次富浩さんから挨拶。「めげずに挫けずに現場で闘う。それが知事を支える」「平和行進の三日間はゲートからの出入りはなかった」「政治の劣化が著しいが安倍政権の支持率が高止まりしている。国民の意識の劣化もあるのではないか」話の途中で機動隊が動き出し、9時40分から1回目ごぼう抜き。人数も多かったので40分間粘るが、ダンプ、ミキサー車20数台に入られてしまった。

土木技術者のOさんが先週の県政策調整監との交渉を報告。「県にゲート前のごぼう抜きの現場を見ること、海上作業を監視することを要求した」「石材の海中投下で濁り水が拡散しないと防衛局は説明している。この計算式が改竄されている。県を通じて琉球大学教授に検証を求めた」朝から最先頭で座り込んでいた島袋文子おばあが昼前に帰る。体調が悪くない限りほぼ毎日来ている。昨日の県民大会でも最前列に。辺野古区の住民は新基地容認が多いと言われているが、名護市議の大城さんの報告では、そんなことはないと言う。島袋おばあのように反対も多い。大城市議の選挙では容認派の候補が120票減らし大城さんの得票が180票増えたとか。人口1500人の意見を聞かずに18人の行政区委員会で物事を決めるところに問題がある、と大城市議は話していた。

昼休み。いつもなら2回目排除がある時間だが動きがない。おにぎりを食べて座込み待機。気温はどんどん上昇中。暑い。

午後1時半ころに機動隊が動き出し2回目のごぼう抜き。午前中の150人が50人以下に減っていたので、今度は15分程で排除されたが、午前中入った車両が出ただけ。なぜか新たな搬入は無かった。考えられる理由は二つ。

一つは岩国市長が午後2時頃にシュワブを視察したこと。海兵隊の岩国基地受け入れを推進している岩国市長はオスプレイやF35が配備できる辺野古新基地建設を条件にしている。もう一つは今朝のごぼう抜きの時に機動隊がハサミを使ったことが写真付きで琉球新報のTwitterで拡散し問題になったこと。座込み参加者が腰をひもで結んでいたの、ハサミで手荒に切り刻んだ危険な行為だ。

琉球新報 2017/05/16 朝刊 P29 社会

辺野古新基地

市民排除にはさみ

県警もみ合う中、ひも切斷

【本紙記者取材】辺野古新基地建設反対派の市民が、5月14日、15日の両日、辺野古新基地建設現場のゲート前で座り込みを続け、15日朝、機動隊の強制排除を受けた。機動隊は市民の腰をひもで結んだ座り込み参加者を、ハサミで切り刻み、排除したと、市民側が主張している。

15日朝、機動隊は座り込み参加者を排除しようとした。機動隊は市民の腰をひもで結んだ座り込み参加者を、ハサミで切り刻み、排除したと、市民側が主張している。

機動隊は座り込み参加者を排除しようとした。機動隊は市民の腰をひもで結んだ座り込み参加者を、ハサミで切り刻み、排除したと、市民側が主張している。

午後4時過ぎ、3回目のごぼう抜き。30人ほどなので10数分で排除されダンプ14台搬入。今度はダンプが出てくるまで20分以上歩道に拘束された。違法な過剰警備。結局座り込み解散は5時近く。炎天下の熱く長い一日だった。



5月16日(火)

朝からどしゃ降り、大雨洪水波浪警報が出るなか、70人近くで座り込み。雨ガッパが最終日に役立った。全員ずぶ濡れになりながら歌で氣勢をあげて待ち受けたが、いつもの時間になってもダンプは現れず。大雨のせいかと思っていると10時過ぎに機動隊が登場。15分ほど粘ったが排除され、ダンプ10数台が入る。荒天のため海上作業はなかった模様。

